



viva
IMAKITA!



【学校 HP の QR コード】

今日から12月「師走」交通事故件数は、年間で12月が最も多いと言われています。交通量の多い校区ですので、子どもたちの登下校が心配です。ご家庭や地域の皆様には、子どもたちへのお声かけとともに、ご自身の安全にもお気をつけください。



ほめて、共に喜ぶ

校長 渡邊 正博

11月は、図書委員会による読書祭りが行われました。子どもたちは読書bingoなどの企画を楽しみました。私はこれまで、筆者と対話するつもりで本を読みながら、「へえ、そうなのか」とすぐに受け入れてしまうタイプでした。最近は、「本当にそうなのかな?」と批判的(吟味的)に読むことを意識しています。子どもたちが図書館へ足を運ぶように、私もカニミライブで9冊まとめて借り、読書の秋を満喫しました。その中のエッセイ集『哲学な日々—考えさせない時代に抗して』(野矢茂樹・講談社)の一部をご紹介します。紙面の都合で要約していますので、全文を読みたい方は校長室までお越しください。

=ほめるのではなく=

「ほめて育てる」とよく言われる。確かに、ほめられるとやる気が出る。しかし、「ほめて育てる」という方針は根本的には間違っている。何かを為すときには、そのこと自体がもたらす達成感こそが原動力になるのであり、この内側から生まれる駆動力を「ほめられるためにがんばる」という行動原理は奪ってしまう。ほめて育てようとする人たちは、おそらく無自覚のうちに、そして子どもを支配しようとしている。では、どうすればいいのか。ほめるのではなく、共に喜ぶこと。何かがうまくできたなら、一緒に喜んで子どもが感じている喜びを増幅する。そして、その子が自分の内側から感じる喜びを引き出してあげるのだ。

この「ほめるのではなく、共に喜ぶこと」については、これまで子育て関連の書物や講演会などでも耳にしていましたので、共感しながら読み進めました。私は、子どもが何かを為したとき、「○○ができたね!」(ほめる) + 「私もうれしいよ。」(一緒に喜ぶ)を組み合わせることで、子どもは、安心して次に向かっていく(たくましく育つ)のではないかと考えました。

あなたはどう思いますか?校長室で感想交流しませんか。…本文には続きがあります。

振り返って、私たち大人はどうでしょう。いまも自分の内側から、泉はこんこんと湧いているでしょうか。

冬休み、親子・家族で一緒の時間を過ごし、泉のように「うれしい! 楽しい! 大好き!」という感情が溢れてくるといいなと思います。

年内最後の学校だよりです。少し早いですが、「4月より大変お世話になりました。良い年をお迎えください。2026年もよろしくお願ひいたします。」